

令和2年度 重点目標達成のためのアクションプラン

氷見市立十二町小学校

＜本年度の重点目標＞

目標に向かって、ひたむきにがんばる子供の育成

	アクションプラン1	アクションプラン2	アクションプラン3												
重点課題	表現力の育成	思いやりの心の育成	健やかな体づくり												
前年度の課題	・学びのステップアップブックを活用して基本形を練習し、「話すこと」「聞くこと」の機会を充実させてきたことにより、相手の話を聞き、自分の思いや考えを話して伝えようとする児童が増えてきた。しかし、相手に分かりやすく伝えようと意識して話したり、相手の話に応じて受け答えしたりすることは、不十分である。 ・自分が行った思いやりのある言動を「ほかほかカード」に書いたり、「ほかほかタイム」で発表したりしたことにより、学校や家庭で相手を思いやる言葉遣いや行動ができる児童が増えてきた。今後は、「いつでも・どこでも・誰にでも」、思いやりのある言動で接することができるように、手立てを工夫する。 ・昨年度は「早寝・早起き」に取り組んだが、早寝については、76%と目標値に達しなかった。児童の実態等から、早寝・早起き等の健康な生活習慣を身に付けるためには、メディア利用の時間を減らすことが必要であることが分かった。自分のメディア利用の仕方について見直し、規則正しい生活習慣を身に付けることができるように手立てを工夫する必要がある。														
具体的な達成目標 (数値目標)	・相手の話を聞き、話題に沿って、自分の思いや考えを話して伝える児童が80%以上 (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)	・学校や家庭、地域等で、いつでも誰にでも思いやりのある言葉遣いや行動をしている児童が85%以上 (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)	・1日のメディア利用時間が2時間以内の児童が80%以上 (休日は3時間以内) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)												
行動Ⅰ (方策)	＜方策1＞ ・学びのステップアップ週間に、学びのステップアップブックの話し方・聞き方から重点項目を決め、学級で取り組むことで、話す・聞くスキルが身に付くようにする。 ＜方策2＞ ・様々な場面で、友達や先生、家族等に自分の考えを話したり、相手の話を聞いたりする「対話タイム」を計画的に設定し、実践の中で話したり聞いたりする力を高める。	＜方策1＞ ・「友達のよいところを紹介しよう」「感謝の言葉を伝えよう」などの目当てを立て、ほかほか週間にカードに記入したり、掲示や放送で全校に広めたりする。 ＜方策2＞ ・水曜日の給食の時間に、「ほかほかタイム」を設け、友達のよい行動や言われて嬉しかった言葉等を発表する。	＜方策1＞ ・年間を通して「すこやかチェックカード」を活用し、メディアの利用時間の目当てをもつようにする。そして、頑張った児童を保健だよりや給食時の校内放送で紹介し、メディアの利用時間を減らすことを意識付ける。 ＜方策2＞ ・理解と実践に結び付くように、メディア利用に関する指導を全体や個別で行ったり、たよりや懇談会、講演会等で、家庭に協力を呼びかけたりする。												
中間評価	<table><tr><th>＜方策1＞ B</th><th>＜方策2＞ B</th></tr><tr><td colspan="2"> ・友達や先生の話最後までしっかり聞くことができた児童は81%、保護者の評価は85%で目標値を達成した。内容に合わせて話すことができた児童は76%、「『家族で対話タイム』で、「『どうしてそう思うの?』等と、家の人にさらに詳しく聞いている」は65%であった。これまでの取組により、聞く態度は身に付いてきている。今後は、質問したり、感想を伝えたりする場を充実させ、話の内容を捉えて話す力を伸ばしていきたい。 </td></tr></table>	＜方策1＞ B	＜方策2＞ B	・友達や先生の話最後までしっかり聞くことができた児童は81%、保護者の評価は85%で目標値を達成した。内容に合わせて話すことができた児童は76%、「『家族で対話タイム』で、「『どうしてそう思うの?』等と、家の人にさらに詳しく聞いている」は65%であった。これまでの取組により、聞く態度は身に付いてきている。今後は、質問したり、感想を伝えたりする場を充実させ、話の内容を捉えて話す力を伸ばしていきたい。		<table><tr><th>＜方策1＞ B</th><th>＜方策2＞ B</th></tr><tr><td colspan="2"> ・家庭での挨拶は児童85%、保護者86%、地域での挨拶は児童92%、保護者84%で概ね目標を達成した。相手を思いやる言葉遣いができた児童は、学校では93%、学校以外で85%だったが、保護者の評価は78%で児童との差が大きかった。思いやりのある行動ができた児童は、学校では91%、学校以外では85%で、保護者の評価は81%だった。方策2については、全校放送で、ほかほか週間のよい言葉遣いや行動を紹介した。 </td></tr></table>	＜方策1＞ B	＜方策2＞ B	・家庭での挨拶は児童85%、保護者86%、地域での挨拶は児童92%、保護者84%で概ね目標を達成した。相手を思いやる言葉遣いができた児童は、学校では93%、学校以外で85%だったが、保護者の評価は78%で児童との差が大きかった。思いやりのある行動ができた児童は、学校では91%、学校以外では85%で、保護者の評価は81%だった。方策2については、全校放送で、ほかほか週間のよい言葉遣いや行動を紹介した。		<table><tr><th>＜方策1＞ B</th><th>＜方策2＞ A</th></tr><tr><td colspan="2"> ・1日のメディアの利用時間（2時間以内）を、守れた児童は、「すこやかチェック週間」中で76%、普段は70%であった。メディアの利用時間を少なくしようと取り組んでいた保護者は、「すこやかチェック週間」中で77%、普段は66%であった。すこやかチェック週間中の方が守れた割合が多いが、目標値には、もう少しのところで達していない。 </td></tr></table>	＜方策1＞ B	＜方策2＞ A	・1日のメディアの利用時間（2時間以内）を、守れた児童は、「すこやかチェック週間」中で76%、普段は70%であった。メディアの利用時間を少なくしようと取り組んでいた保護者は、「すこやかチェック週間」中で77%、普段は66%であった。すこやかチェック週間中の方が守れた割合が多いが、目標値には、もう少しのところで達していない。	
＜方策1＞ B	＜方策2＞ B														
・友達や先生の話最後までしっかり聞くことができた児童は81%、保護者の評価は85%で目標値を達成した。内容に合わせて話すことができた児童は76%、「『家族で対話タイム』で、「『どうしてそう思うの?』等と、家の人にさらに詳しく聞いている」は65%であった。これまでの取組により、聞く態度は身に付いてきている。今後は、質問したり、感想を伝えたりする場を充実させ、話の内容を捉えて話す力を伸ばしていきたい。															
＜方策1＞ B	＜方策2＞ B														
・家庭での挨拶は児童85%、保護者86%、地域での挨拶は児童92%、保護者84%で概ね目標を達成した。相手を思いやる言葉遣いができた児童は、学校では93%、学校以外で85%だったが、保護者の評価は78%で児童との差が大きかった。思いやりのある行動ができた児童は、学校では91%、学校以外では85%で、保護者の評価は81%だった。方策2については、全校放送で、ほかほか週間のよい言葉遣いや行動を紹介した。															
＜方策1＞ B	＜方策2＞ A														
・1日のメディアの利用時間（2時間以内）を、守れた児童は、「すこやかチェック週間」中で76%、普段は70%であった。メディアの利用時間を少なくしようと取り組んでいた保護者は、「すこやかチェック週間」中で77%、普段は66%であった。すこやかチェック週間中の方が守れた割合が多いが、目標値には、もう少しのところで達していない。															
中間評価公表	ホームページ・学校だより														

行 動 II (方策)	<方策 1 > ・行動 I の方策を継続する。学びのステップアップブックのステップ 2 から重点項目を学級で決め、掲示して取り組む。できた際には機会を逃さずに認め、よい話し方、聞き方を意識できるようにする。 <方策 2 > ・行動 I の方策を継続する。異学年の縦割りグループで「対話タイム」を行い、より発言の機会が増えるようにする。	<方策 1 > ・行動 I の方策を継続する。思いやる言葉遣いや行動の例を具体的に示し、より実践できるように働きかける。 <方策 2 > ・行動 I の方策を継続する。状況によっては、よい行動や言われて嬉しかった言葉を放送で発表したり、担任が教室で紹介したりする。	<方策 1 > ・行動 I の方策を継続する。児童の頑張りをもっと全体に広めていく。 <方策 2 > ・行動 I の方策を継続する。メディア利用について全体や個別で指導する。利用時間が長い児童には声がけの他に、グラフ化等で、利用時間の長さを実感させる。
------------------------	---	--	--

【評価基準】

- ・「方策」 A…目標達成に効果があった B…目標達成にやや効果があった
 C…目標達成にあまり効果がなかった D…目標達成に効果がなかった
- ・「総合評価」 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった